■新春インタビュー

震災の経験と教訓を世界に伝えていく「阪神・淡路メモリアルセンター」着工

21世紀を迎えて、震災復興計画も後期5カ年計画がスタートしました。本日は、今年から建設がはじまる「阪神・淡路大震災メモリアルセンター（仮称）」の施設概要とこの1月に開催するメモリアルウォークなどの関連事業を中心に、井戸兵庫県副知事から兵庫県の復興計画の理念と展望についてお話いただきます。

井戸敏三〈兵庫県副知事〉

新たな局面を迎える震災復興計画

――震災から6年を迎えるにあたって、震災復興もいよいよ本格化してきますね。

過去の5年間はいわば緊急・応急対策に対応してきました。後期5カ年推進プログラムがスタートする6年目の今年、ようやく本格的な復興の段階「再建期」を迎えたと言えるでしょう。この計画の特色は、これまでの5カ年に培った行政と県民とのパートナーシップに重点を置いた「参画と協働」の仕組みづくりを重視しているところにあります。

――復旧の段階を越えて、本当の意味での復興がはじまるということですね。

震災復興計画の基本理念である「創造的復興」を目指し、後期5カ年に取り組むにあたり、これまでの復旧復興過程において解決できなかった課題がふたつあります。まずは個々人の生活再建、地域の見守り体制の充実やコミュニティづくりなどに、きめ細かく取り組んでいく必要があります。あわせて、被災者の生活復興には、生活再建と住宅再建の双方が不可欠であるという観点から、兵庫県では「総合的国民安心システム」を提案してきました。その結果、生活再建支援については、平成10年5月に「被災者生活再建支援法」が成立しましたが、残る住宅再建支援制度の創設に向けて、努力を重ねているところです。もうひとつは地域力の回復。まだ震災前の人口が回復していない地域もありますし、地域の商店、工場の再建も進める必要があります。新しいまちづくりには行政と県民のパートナーシップが不可欠です。そういう意味でも、これまでの震災復興の経験が生きていくのだと思います。

「メモリアルセンター」の果たす役割

――いよいよメモリアルセンターの工事がはじまりますね。世界中からの期待も大きいことと思います。

みなさんの支援のおかげでやっとここまでこぎつけることができました。整備費は実質国、運営費にも国が半分負担してくれることとなりました。国もその責任としてメモリアルセンターを重要視している現れだと思います。震災の記憶を風化させず、震災で得た貴重な経験と教訓を国内外に継承し、将来の地震災害による被害の軽減に貢献することこそ、被災地兵庫県が果たすべき責務だと思います。その中心的役割を担うのがこのメモリアルセンターです。

――様々なアイデアがあるようですが、具体的な機能はどのようなものになるのでしょうか。

大きく分けて4つの機能に整理することができます。

まず1つめは、「大震災にかかる展示といのちの尊さの発信」です。第1館は、大震災の事実と教訓の展示空間です。2つのシアター

と時系列課題を整理して展示するとともに、災害対策、ボランティアなど分野別の情報コーナー、資料室から情報発信します。

第2館は、いのちの尊さと、共に生きることの素晴らしさを感じてもらいます。いのちの源をテーマにした「こころのシアター」と生命を育む森をモチーフにした感動的な展示・交流空間です。厳粛で楽しい「事実と夢の館」にしたいものです。

また、震災資料は現在収集中で、ポスター、手書きメモ、私製新聞など、約13万点の収集を目標としています。

2つめは「震災対策に関する実戦面を重視した総合的な調査研究」です。各大学研究機関などで行われる理論的研究ではなく、被災地だからこそできる実戦的研究が中心となります。

3つめは「震災対策にかかる実戦的な人材の育成及び広域支援」です。先頃の鳥取県西部地震のときにも、現地に県や市の応援部隊を派遣したのですが、阪神・淡路大震災で培った経験を活かし、お役に立つことができました。災害対策に対する幅広い知識を学ぶ場をつくり、専門的人材を育成することは被災地の責務です。そして、災害が生じた時には、直ちに支援に駆けつけることができる体制を持ちます。

四つめは「国内外の防災関係機関等との交流・ネットワーク」です。メモリアルセンターは防災関係機関や大学と交流し、ネットワークを広げていくこととしています。

――メモリアルセンターには積極的な県民の参加が必要ですね。

企画運営に対するアイデアの公募や、フォーラムの開催などを行っています。今春からはメモリアルセンターの企画や運営に参加していただくボランティアを公募します。メモリアルセンターサポーターズとして養成し、開館時には展示解説、資料収集、情報誌発行など多岐にわたる業務に携わっていただきます。多くの人が関心を持ち参加する施設でなければ意味がありません。台湾やトルコなどでも大きな災害は起こっており、いまや災害対策は地球全体の問題です。人類史上希にみる都市災害に見舞われた兵庫県に、メモリアルセンターができることは、世界中からも注目されています。

輝かしい世紀への新たな第1歩

――メモリアルセンターには慰霊のモニュメントが設置されるそうですね。

市町レベルでは6市2町に慰霊碑などが設置されています。メモリアルセンターに設置するモニュメントには県外の方々も含めた犠牲者の方全員の名簿を納めたいと考えています。大震災が発生した5時46分を永遠に記憶にとどめる形を考えたいと思っています。

――1月17日にはメモリアルウォークが行われるようでね。歩くことによってもう一度元気になることってありますね。

震災のときは誰もが歩いていました。「防災とボランティアの日」でもある1月17日に、緊急時の避難路ともなる山手幹線をみんなで歩くことにより、参加者一人ひとりがあの日を21世紀にどのように繋げていくかを再確認できるイベントとなればと思っています。様々な意味で変革のときを迎えているいま、メモリアルウォークが21世紀のオープニングとなることを期待しています。

■株式会社竹中工務店神戸支店 神戸市中央区磯上通7-1-8 TEL078-265-3300

滝えり子新春コンサート

2001.1.28(日)
神戸国際会館こくさいホール

～曲目～
Love Is A Many Splendored Thing(慕情)
Tennessee Waltz(テネシー・ワルツ)
Blue Canary(青いカナリア)
Take The A Train(A列車で行こう)　ほか

With A Song In My Heart
我が心に唄えば

お問い合わせ　ALBATROSS 神戸アルバトロス
〒650-0004 神戸市中央区中山手通1-22-10象ビル2F
TEL.078-231-3300
http://www.mmjp.or.jp/live-info/

衣裳／大西節子(クチュリエール)

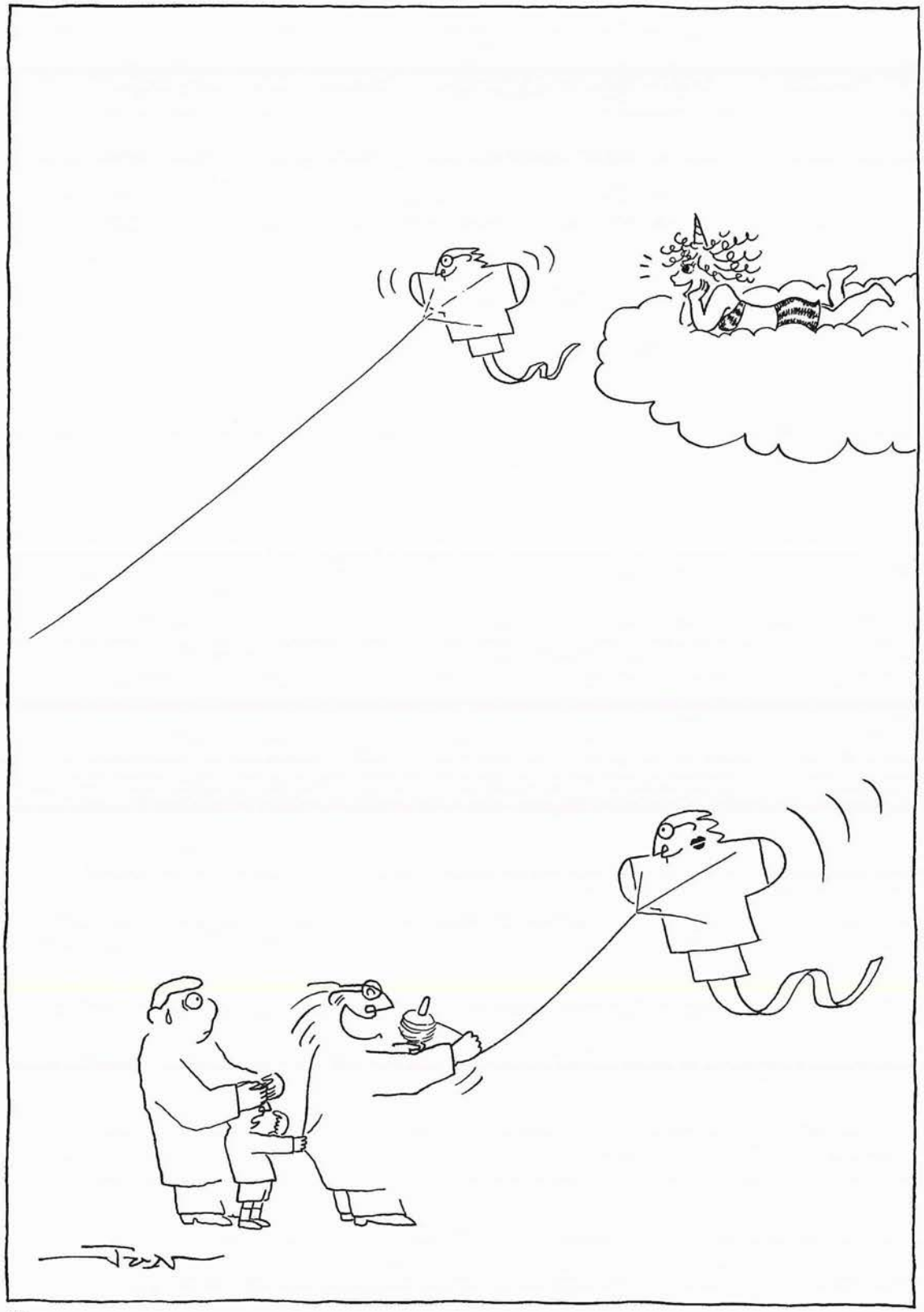
美春
二〇〇一年元旦

栄光流石茶(えいこうさすがちゃ)

『栄光流石茶』に関するお問い合わせは…

Daisho
株式会社
ダイショー
〒663-8177
兵庫県西宮市甲子園七番町
18番26号
TEL. 0798-44-3738
FAX. 0798-44-3444

おなじみプロフェッサーPの研究室 ―岡田 淳―



私の意見

想い出の神戸と夢の神戸

芹田　健太郎〈神戸大学大学院教授・神戸新聞社客員論説委員〉

一九五〇年春、私は転校生として神戸にやってきた。葺合区（現在の中央区東部）旗塚通でクリーニング業を営んでいた母方の叔母夫婦を頼ってのことであった。四月から雲中小学校四年生としての神戸での生活が始まった。ちょっと足をのばし、パチンコなどのある三宮はガキどもの縄張りであった。天草（熊本県）の片田舎から出てきた私には、そごうの東側の金網に沿って歩く進駐軍のMPの歩哨が珍しく、省線電車（現JR）や市電も驚きであった。

天草にいた頃、私の親は一度でも私の成績が成績通知表の最上欄に横一線で並べば、つまり全優になれば、熊本の動物園に連れて行くと約束してくれたが、具体的に状況を思い描くことのできない、かなわぬ夢であった。なぜなら、田圃のあぜ道や山や川を走り回る日常であったからである。

ところが、私が転校してきた春、神戸博が開会し、翌春には神戸市立王子動物園が開園したのである。王子動物園の桜の下で家族連れなど、車座になった人びとの平和な状況がついこの間のことのように思い出される。この年十月二十一日のみなとまつりでは十六年ぶりに国際行列が復活し、眼前に国際港都の華やかさが展開された。電飾された花電車のきらびやかさが私の脳裏に焼き付いて離れない。この日はとくに子どもにとって唯一夜遊びの許される特別の日であった。

中学一年生の一九五三（昭和二十八）年十月、神戸市電石屋川線が全通した。この線は、平常は加納町三丁目、大倉山、湊川、長田を走り、東尻池から栄町方向に走るのであるが、夏に限り海水浴のため須磨までの直通電車が運転された。行きは友達とおしゃべりしながら、そして、帰りは水泳の疲れでぐっすりと眠る一時間の旅として、よく利用した。神戸は輝（かがや）だ、と地理の教師に習ったが、本当に毎夏それを実感していた。

阪神・淡路大震災でいずれも全壊した三宮の顔、神戸新聞会館が高校一年生の五月、神戸国際会館が十月に完成した。そして、五階がむごく押し潰された神戸市庁舎の完成が翌年の春であった。神戸近代化のシンボルであり、神戸っ子の誇りであった。

想い出の中の神戸では、布引の滝に遊び、裏山を駆けめぐり、香枦園浜の水練学校に整列する子どもたちがいる。自転車はあるが車はない。緑と水が身近にあり、路面電車がのんびり走っている。二十一世紀にそんな都心が見られるであろうか。

アリスのヘルスシューズで
足元から健康に、ファッショナブルに

足は、体全体の健康のもと－足のトラブルは、体全体のバランスに大きな影響を与えます。外反母趾、開張足や扁平足、また、左右の脚の長さの違いによっておこるトラブル、糖尿病やリウマチに起因する場合など、実に多くの方々が足の悩みを抱えています。これらの足の悩みを予防されたい方にも、既に、足の痛みに悩まれている方にも、お勧めしたいのが株式会社アリスの健康靴です。

ドイツの最新の整形外科水準に基づいて作られた健康靴は、木型·靴幅も豊富に揃い、解剖学的見地から正しく作られ、取り外し可能なフットベッドをはめ込むデザインになっています。このフットベッドを専門的に調整することによって、様々な足の形や症状に合わせることができます。健康な足を健康に保たれたい方も、傷んだ足に悩まれている方も、是非、アリスの健康靴をお試しください。ヨーロッパのファッションを取り入れたモデルを取り揃えて、皆さまのお越しをお待ち致しております。

代表取締役社長 アリス·クリスチャンス

Japan's Premier Health-Shoe Specialist
高級健康靴と関連資材輸入・機材輸入

アリス

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通り5-6-6
TEL:078-382-2101 FAX:078-382-2150
営業時間:10:30a.m.～6:30p.m. 水曜休

21世紀の夢

月刊神戸っ子2001年1月号特別企画

思いっきり夢を語ろう

21世紀をリードしていく「神戸っ子」の方々に、新たな気分や計画、自分の夢や希望、今考えていること、すでに実現しはじめていること、また震災からの復興についてなどを思いつくままに書いていただきました。さて、あなたの21世紀の夢は？

「新しくなった道」とその情景を描いてみる

永田耕一（46）
株式会社永田良介商店
代表取締役

2001年秋、三宮（裏）線の地下鉄工事に伴う整備が完成する。それに合わせて、大丸前商店街もアーケードを撤去し、歩道も南北ともに整備し直し、21世紀は今までと違った顔で皆様をお迎えすることになる。そこで「新しくなった道」とそこにある情景を想像してみると…。

広い歩道にはケヤキの並木があり、木陰を作っている。その木陰を柔らかな風がながれていく。センスの良い着こなしをした人々が通りを歩き、子供たちが同じ通りを走り回っている。歩道に沿ったテラスカフェではカップルが顔を近づけて話に夢中になり、子供を見守る親たちの柔らかな笑顔を見ることができる。

秋が深まるとともに木の葉が色づきはじめる。冬、この通りにルミナリエがあり、トアロードクラフトアートフェアやミュージックウィークも開催されていた。夏には夜市をやっていたし…。そんな情景がくることを願っている。少しずつ変わっていく神戸の町。そんな落ち着いた町にしていきたいと思っている。

有馬温泉に21世紀はあるのだろうか？

金井啓修（45）
陶泉御所坊／陶泉居

日本の人口は移民を認めない以上、増加する事は考えられない。海外旅行者は増加しても減少する事はないだろう。所得が大幅に増える要因も見出せない。

ならば益々国内旅行の競争激化は避けられない。有馬存亡の危機が訪れる。生き残る方法はふたつ。競争相手が脱落し、需要と供給の分岐点に達するまでもち堪える。

もうひとつは、外国人観光客を誘致し需要を増やす。神戸はいち早く外国文化を受け入れてきた街だ。そして有馬には戦前まで、外国人専用のホテルがあった。

国際化をしていく上で、障害は差程ないと私は思っている。国際化とは外国に迎合するのでない。文化的質を高め有馬固有の在り方を確立することだ。「温故知新」という言葉が有るが、21世紀の鍵は有馬1300年間の歴史の中に秘められていると、私は考えている。400年前の震災復興に秀吉は、泉源の整備、河川の付け替え、そして灯明坊主と湯女に禄高を与えた。

今、外湯の整備が進められている。河川は交通問題に、灯明坊主と湯女は夜の街の演出と、受入れ側の意識の向上に置き換えて考えられないか。800年前の有馬を復興した仁西は、木地師や遊芸の民を連れて来た。

コンピューター社会だからこそ、手作りのクラフトをおこすべきだし、人を愉快にさせたり、感動させる芸能を育成する必要がある。1200年前、行基は人々の病を癒す為に有馬にやって来た。有馬は心を癒す地であるべきだ。

過去を振り返り、現代の有り様を見据えると、有馬の21世紀が見えてくる。

若い人が神戸に新風を吹かせて街に活気を

鵜殿麻里絵（22）
株式会社コンセンサス
松酒家／代表取締役社長・店長

今年で「松酒家」も創業83年となりました。20世紀の全盛期を生きてきた「松酒家」も阪神大震災で長い歴史に一旦幕を閉じ、97年に懐石レストランとしてオープンしました。

料亭の頃のような値段やメニュー内容では、今の時代に順応できないため、幅広い世代の方に支持されるよう、奮闘しております。

二代目である祖母からの長いお付き合いのお客様がご来店いただいた時などは、経営から人生まですばらしいお話をしてくださるので、そのようなお

21世紀の夢
Dreams of 21st.century

話を今後の自分の糧にできるようにと思っております。

尊敬する祖母の分身ともいえる「松迺家」の名を汚さぬよう、昔ながらの料亭の風情をどこかに残しつつも、今後は日々新化するＩＴを活用しながら一歩進んだ個性的な店作りを目指しております。

21世紀には個人的にも感性を活かせる仕事を多分野にわたって挑戦し、今まで培ってきたものを発揮できるようにしたいと考えております。そして神戸に若い人たちが新風を吹かせて、活気あふれる街になることを望んでおります。

無理にでも楽しいものに仕上げてしまう僕の実行

松本小銀杏（23）
イラストレーター

僕自身の20世紀と21世紀を考えてみると、前者は「予定を立てる時期」、後者は「実行する時期」になります。予定を立てる時期は23年間ありましたが、イラストレーターになろうと決めるまでにサッカー選手になりたくてボールを追いかけた事もありました。パターンメーカーになりたくてミシンをフミフミした事もありました。そのほかすべてのものが積み重なって今思っているイラストレーターとして実行する事々の準備になっていると思っています。

今まで過ごしてきた日々、出会った人々や見たり聞いたりしたもの。それぞれを自分の良いものとして感じて、すべてを無駄にしないでおく。

そうしていれば楽しく過ごせるし、僕にとっての21世紀も面白い時期になるのではないかなと思っています。自分自身で無理にでも楽しいものに仕上げてしまう。それが僕の実行です。

僕の夢、それは、絵に興味のある人、無い人関係無く気軽に作品とふれることの出来る空間がもっと増えればいいと思っています。

すべての人がよく感じて楽しく過ごす。すると面白いと感じる事のできる生気ができあがる。さぁ、21世紀です。楽しみましょう、面白がりましょう。

Enjoy Talking City KOBE 真に会話の弾むまち・神戸

今井芳夫（50）
株式会社アート・ファーマー代表取締役
神戸21世紀・復興記念事業プロデューサー

東ヨーロッパを含め欧州に於ける〝ナイト・ライフ〟の楽しみ方、過ごし方についていつも思うことがある私は、接待や義理のお付き合いではなく、その日の仕事を終え、本当に親しい友人、知人、良きパートナーや家人との会話の弾む（弾まなくてはいけないと想う）〝ナイト・ライフ〟を創出したいと真剣に思っています。

大好きな神戸の21世紀のことを思うと――、空港も完成し一大物流都市、情報交換都市として、益々、来神者が増えることと思います。そんな来訪者にとって、また、１５０万市民が安全で安心な〝ナイト・ライフ〟を楽しむことができるすべての人に優しいまち・〝アーバン・リゾート都市〟づくりが急務だと思われます。

Enjoy Talking City KOBE（真に会話の弾むまち・神戸）計画。

- 〝ナイト・ショッピング〟が楽しめ、
- 夜10時からの〝レイト・コンサート〟が楽しめ、
- ヘリによる夜間飛行が楽しめ、
- 「夢風船」が遅くまで運行しており、
- 週末には、元町やトアロードに、「夜市」が開き、
- 遅くまで営業している各国のレストランがあり、
- 週末にはエンターテイメントに溢れた公営のカジノ（船）が開かれ、
- 週末にはオール・ナイトで演奏しているジャズ・ライブハウスがあり、
- 昼間働いている人のためのホビー・スクールが開校され、
- 深夜まで走る公共交通機関（バス、地下鉄）があり、
- その日のシティ・ホテルなどの空状況や上記のホットな情報が瞬時にとれる〝ＫＯＢＥ ｉモード〟（orＩＴセンター）が開設される。

〝注いで注がれて〟日本の酒文化を残したい

山邑尚道（37）
櫻正宗株式会社専務取締役

21世紀に思いをめぐらすと、本来欲張りな性格なのであれやこれやと思いつくことがあります。

たとえば、不治の病とされる病気がなくなり平均寿命が百歳を超える。車に代わる交通開発システムが発明され、無公害かつ無事故にて瞬時に移動できる。宇宙にも旅行ができ、月ぐらいには住めるようになるなど、21世紀中には必ず実現できると夢はふくらみます。

ところで私は灘で酒造業を営んでいます。酒がどぶろくの時代を含めて製造方法、飲み方など何世紀もそんなに大きく変わっていません。しかし、この頃少し酒への関わり方が変わってきているように思われます。

酒（特に日本酒）は酌み交わす、注いで注がれてという文化がありますが、その文化が失われつつあるように思われます。自分の好きなものを好きなだけ、好きな時に飲むという事も素晴らしいことですが、酌み交わすことにより口べたな日本人のコミュニケーションが進み、お互いがより一層懇意になり、連帯感が生まれる、そして酒の力を借りて自分の夢や理想を語り合え、夢の実現に一歩近づける。

科学技術が発展する21世紀こそこのような素晴らしい文化を残していければと思いを馳せます。

私らしい人生を選ぶため、最初の一大決心の年

向井さやか(21)
立命館大学3回生

2001年というのは、私の人生にとって、一大決心の年です。なぜなら、大学の卒業を春に控え、自分の進むべき道を決めなければならないからです。

最近、大学で行われる就職ガイダンスの一貫として、自己分析をしてみるという時間がありました。どのように自己分析するかというと、小さい頃は自分はどんな子だったのか、今まで人生の中で最も輝いていた瞬間はいつか、過去に経験した逆境はいつで、それは、その後の人生にどのようなメリットを与えたかなどという質問に対し、今までの人生を振り返って答えて、考えていくものです。

この自己分析をやってみて、改めて、自分のことが再確認できたし、もっと私らしさを出してもいいかなと思いました。そのためには、多くの人たちと積極的に接し、いろんなことに興味をもち、物事の知識を深め、少しでも視野を広げていく、それらを21世紀の目標として私らしい人生を歩んでいきたいです。

Back&Forthの思いで

アレックス楊(52)
アレックスエンタープライズ株式会社
代表取締役

世の中で21世紀、Millenniumと騒いでいる中であくまで自然体に1年1年を着実に進んでいきたく思っております。

古き良きものを意識しながら、使い捨ての世の風潮に惑わされず、新しいものにチャレンジしつつ、常にBack&Forthの思いで…

20世紀中に若者だった僕らは

藤谷研志(28)
フリーライター

20世紀中に誕生し10代と20代の大半を過ごした僕らのような人間は、旧世紀に育まれ新世紀に何らかの結果を求められている。もちろん世紀が替わるからといって、めぐる季節には何ら影響はなく、毎日の生活に衝撃的な変化が訪れるわけでもない。目に見える変化といえば、カレンダーとスケジュール帳が変わる程度のことだろう。でも、何かのきっかけにするには充分すぎるチャンスであるような気はする。

せっかくの新世紀のはじまりを体験できる時代に生まれたのだから、それを都合良く自分の中に取り込んで、頑張るための理由付けに利用しても、誰も文句は言わないだろう。

千年期の替わり目なんて滅多に見られるものではない。当然、21世紀が終わるまでには僕の人生も終わっている。だからとりあえずは今年、30歳を目前に、これまで取り組んできたことに対する僕なりの答えを出すべきだと思う。時代が与えてくれたせっかくの機会だから、自分を育んでくれた20世紀の集大成を見せたい。

それほど大したことではないかも知れないけど、それがいまの僕の精一杯だろう。

とび跳ねて観る展覧会構想

LOCO(24)
鳴本昭三研究所
紙コップアーティスト

「作品にさわっちゃダメです」
「大声で話しちゃダメです」
「走っちゃダメです」

ダメダメダメです。美術館にはたくさんのダメがいっぱいです。

兵庫県立近代美術館で開催された「アート・ナウ」でロコは、上記のダメを全てひっくり返す作品を展示した。

「糸でんわの作品にさわってください」
「糸でんわで話してください」
「糸でんわの雨の中を走ってください」

来館者の感想で最も多かったのは「作品に参加できてうれしかった」

これを聞いてビックリした。まだまだ〝さわれる〟作品って少ないのである。そりゃーそーだ。

冒頭で述べた、美術館に対するイメージは根強い。コツコツと足音をならしながら美術館を歩き回り、作品の前でジーッとにらめっこする。ムズカシイ顔をして。そのうち額にシワがいくのがオチである。

だからアートはムズカシイとされ敬遠される。作品の前で行儀よく立ち止まるから頭が堅くなるのだ。

そこでこんな美術館を提案する。

「床がナナメで身体もナナメにしないと観れない美術館」

「それならいっそのこと、もっとナナメにして滑り台をつくり、スベッて初めて絵が観れる美術館」

「小さなトンネルをつくり、へっぴり腰で通ると床に絵や文字が描いてあって、いつの間にか読まされている。数字でもよい。10＋72－39×2…なんてぐあいで出口に答。アレレ、答があわない。もう一回通らなきゃ」という美術館」

「ぴょーん、ぴょーん。トランポリンのとび跳ね方次第で観られる作品が違ってくる。高ーい所に作品が置いてあって、とび跳ねないと観られない美術館」

アートとは身体で楽しむものだ。

頭で考えるものではない。キャンバスをとび越えよう。そこに21世紀のアートは存在する。

21世紀の夢
Dreams of 21st.century

神戸の風を音にして世界に伝えたい

天野SHO
ミュージシャン

ずいぶん前に〝2001年宇宙の旅〟という映画があったが、まさにその2001年に自分自身が立っている。20thセンチュラーの私としては、21世紀を迎えること自体が夢のようであり、驚きと感動である。

私は音楽に出会って以来、毎日が新しい夢との出会いなのである。KOBEに生まれ育ち、KOBEの風を感じ、人の優しさに触れ、そして気がつけばベースギターを弾きいろんな歌を歌っていた。

私独自のスタイルといえるベースギターの弾き語りを、人は不思議な世界だと言う。ならば、その不思議な世界を、KOBE発、日本中、いや、世界中の人にKOBEで生まれ育った音楽を感じてもらおうと思っている。

先日も、カナダのモントリオールで、津軽三味線とのジョイントコンサート〝和と洋の出会い／JYONGARA&BLUES〟のプロモーションビデオを放映したところ、ヨーロッパをはじめ、アフリカ、カナダなどの国々からオファーがあったことを知らされ、私の夢にまた一歩近づけたと実感した。

アジアで海外旅行ブームが起きる年

大澤一郎(40)
ホテルサンルートソプラ神戸専務取締役

1995年、あの震災でたくさんの人達が天国に召され、たくさんの人達が涙し、そして生かされた私達はいろんなことを学び、感じた。私はその思いを音に変え、風に乗せ、世界中の人達に伝えたい。KOBEの風には色がある。その風が、いつまでも色褪せず、優しさと愛あふれる21世紀でありますように…。

21世紀のホテル業界は、ナショナルブランドのホテル間の競争になると思います。当ホテルで特筆すべき点は、インターネットでの宿泊予約が、ホームページの立ち上げ当初は、1カ月に3、4件だったのが、約300件まで増加したということです。ナショナルブランドのホテルは、世界各地にネットワークをもっているだけでなく、利便性がよく、価格以上に質のよいサービルを供給できるということを理由に挙げることができると思います。

震災前まで、女性同士で観光を楽しみたいという質問に「神戸」という答えが、上位を占めていました。新神戸駅が全国からの玄関口になりますが、駅に着けば荷物をホテルへ配送してくれるキャリーサービス（有料）をいち早くとり入れて、女性でも身軽に神戸を散策できるよう配慮すべきです。観光ビジネスは都市間競争でもあります。京都では既に、キャリーサービスを導入しており、神戸は遅れをとっているように思います。

大阪にいよいよユニバーサルスタジオがオープンします。神戸にも大型集客施設を建設し、相乗効果を発揮すれば、アメリカのオーランドやロサンジェルスのように世界的な国際観光都市として脚光をあびることも可能だと思います。21世紀の初頭、アジアで海外旅行ブームが起こると言われています。この機運に乗り遅れないためにも、ハード面の充実、ソフト面の改善が大切なのではないでしょうか。

改革を実現して共に〝新世紀の汗〟を流そう

樽本佳郎(39)
社団法人神戸青年会議所理事長

21世紀は私たちに様々な問題を投げかけ、様々な選択を余儀なくしようとしています。そのためにも、メンバーの一人ひとりが、これまでのシステムを変える意識をもつこと、そしてそれを実行する勇気をもつことが、最も大切なことではないでしょうか。

常に時代の先を見つめてきた若者として、青年経済人として、私たちには新しい時代を迎えて、次の3つの行動を示すことが求められているのではないでしょうか。

①官主導・中央集権型から民主導・地域主導型へ転換する「社会」の改革。
②自分たちの地域は自分たちで支えていくという「意識」の改革。
③自己変革とたゆまぬ努力、市民の視点を踏まえた強固な団結力による「組織」の改革。

これらの改革を実現し、そして夢のある社会の実現を目指して、共に〝新世紀の汗〟を流そうではありませんか。

ポートピア博覧会が開催された1981年、神戸青年会議所が主管した記念行事で、ポートアイランドの南公園内にタイムカプセルを埋めました。そして、21世紀を迎える本年、このタイムカプセルを開封することになっています。

当時の市民が、どのような夢を描いたのか検証し、夢のある神戸の将来像を探索していきたいと思います。長い間、眠り続けたタイムカプセルは、私たちに何を語りかけてくれるのでしょうか…。

タイムカプセルの開封を市民と共に見届け、そこに込められた「20年前の人々の夢」、あるいは「街と生活の変遷」を検証することによって、〝先人の思い〟と〝私たちの思い〟を10年先、20年先の〝神戸のまちづくり〟に活かしていきたいと思います。

南京町が地域のコミュニティー放送局のモデルケースとなる日

玉城公一（38）
株式会社シービット
代表取締役社長

個人がホームページを作成して自己満足に終わっていた時代が20世紀。映像コンテンツによって、街や人の魅力を映像で伝える「地域コミュニティ放送局」をコミュニケーションツールや販促媒体として活用するのが21世紀だと思います。

平成8年から南京町商店街振興組合のホームページを作成していますが、現在では全国からアクセス数が1カ月に約8500件にまで増加しました。

恒例となった神戸南京町春節祭では、ダイナミックな龍踊りや美味しさ満載の中華料理など、熱気あふれる映像をライブで全国へ発信することで、春節祭の認知度はさらに上がっています。

ホームページを作成する場合、発信する側のアイディア、街づくりへの情熱などすべてがミックスされて、魅力あるコンテンツが出来あがります。いくら技術的なことを言っても、発信する側に魅力や熱意がなければいいものはできません。南京町はこれらの要素を備えており、「地域のコミュニティ放送局」のモデルケースとして参考になると思います。

21世紀には、「地域のコミュニティ放送局」を手軽に利用できる環境をいち早く整え、コミュニケーションツールとしての普及に努めていきたいです。

オードリーのように

赤坂恵里（23）
田崎真珠株式会社勤務

先日、神戸大丸ミュージアムのオードリーヘプバーン展へ行ってきました。オードリーの愛唱した詩の「私のスタイル」からです。

●魅力的な唇のためには、優しい言葉を紡ぐこと。
●愛らしい瞳のためには、人々の素晴らしさを見つけること。
●スリムな身体のためには、飢えた人々と食べ物を分かち合うこと。
●豊かな髪のためには、一日一度子供の手で梳いてもらうこと。
●美しい身のこなし方をするためには、決して一人で歩むことがないと知ること。

年をとると、人は自分にふたつの手があることに気付くそうです。ひとつは自分自身を助けるために。そしてもうひとつは他者を助けるために。そのような当たり前のことに早くから気付いていたオードリーの『時を越えた美しさの秘密』を感じて帰ってきました。

私は、2000年という時代の大きな節目の年に社会人になりました。

受付の仕事は自分が考えていた以上に人との関わりがあります。会社に行けばあの笑顔に会える、元気が出てくる、そう思っていただける受付でありたいと思っています。そのためには自分が健康であり、パワフルであることです。私もオードリーのような素敵な女性になるために、自分自身に磨きをかけ、何ごとにも挑戦し、21世紀を突っ走りたいです。

がむしゃらに走っている。スピードをあげてとにかく走る

鎌塚大典（26）
株式会社クークー
代表取締役

日常、仕事を見渡しても、あまり世紀が変わっていくという認識が沸かないのが現状です。押し寄せる情報化のスピードに対応していくため、市場に柔軟に対応していくため、日々の仕事をこなし、市場の流れを感じることで手一杯の毎日です。

今いちばん興味があることは、2002年のワールドカップです。世界最大のイベントで、世界中の目が集まるこの時に、ITで何ができるのか、本当の価値を見出せるのか、本当の情報を発信できるのかに興味があります。

現在、展開中である地域ポータルサイト、「サイバーシティ」を2002年ワールドカップ開催時までに、日本と韓国の主要都市に展開する計画の早期達成を視野にいれながら21世紀も走りっぱなしの日々が続きそうです。

ジョン・レノンのイメージする世界を創りたい

山内恒男（47）
株式会社アイランドデザイン代表取締役

12月になると、私はいつも思い付くことが幾つかある。

忘年会、もちろん…、
ルミナリエ、もちろん…、
クリスマス、もちろん…

そして、ジョン・レノンのこと。忘れもしない1980年12月8日、熱烈な、ファンの1人に、彼は命を断たれた。彼は、救世主ではないが、国境の無い世界を唄い、差別の無い世界を唄い、愛を唄った。私も彼を信じ、この20世紀を生きてきた。彼のイメージする世界を21世紀に作り、そのなかで、生きてみたい。

神戸という街に生まれ、二つの世紀を生きていけるというのは全く奇跡と思える。神戸の山並を背に、手をのばせば届くような海と、潮風のなかで、インテリアデザインという職業を通じて神戸中、世界中に、自分の生きてきた証を残していきたい。

感動を与えたい。
感動したい。

21世紀の夢

Dreams of 21st.century

世界中の人が、あらゆる情報を、オンタイムで受け取れ、人種の壁、言葉の壁、国の壁、を乗り越えて、グローバルな、社会が21世紀に出現することを、心より望んでいる。

楽しい学校創ろうよ！

中尾信也（29）
コムテック株式会社

私は幼児教材メーカーに勤める商売柄か、幼稚園や学校の先生とお会いする機会があります。

さまざまな人と出会っていつも感じることは、「学校の先生って、資本主義の世界とは無縁な人なんだな」ということです。「みんな仲良く」とか、「先生の言うことを聞く」とか、とにかく協調性を重んじた言葉が多いことに疑問を感じます。

なぜなら、これから子供達が出て行く社会では、互いに競争しあい、時には上司にも意見しながら生きていかなければならないからです。こんな非現実的な世界にいて果たして自分の子供はまともな人間に育つのだろうかという危惧をもちます。

先日ある著名人の講演で、「台風がきて学校が休校になって子供がみんな万歳するなんて、学校も格が落ちたものだ」と言っておられました。まったくそのとおりです。古いシステムや慣習にとらわれず、21世紀をになう人材を育てるためには、まず子供達が通って楽しい場所を学校教育の場で実現させてもらいたいと思います。私の子供が「学校って楽しいとこだね。パパ」といってくれることを心より願います。

心を積み重ねる世紀

響　敏也（48）
作家・音楽評論家

子供の頃、夢の世紀と憧れていた21世紀に、いま歩み入ってみて、夢は夢のままで待っていてくれただろうか。

世紀末から新世紀へは、夢と不安が交錯するらしい。百年前、世紀末の作曲家マーラー（1860～1911）は、心理学者フロイトの診断を受け悩みつつ名曲を書き、文豪・夏目漱石（1867～1916）は、深く神経を病みつつ名文を綴った。二人は文明の進み過ぎが人の心や自然を破壊すると嘆く（百年前に！）。そのまた百年前にはベートーヴェン（1770～1827）が、音楽で全人類の心を救えることを確信する。

彼らはみんな「世紀の変わり目」を生き、現代人のあらゆる悩みを先に悩んでくれていた。彼らの芸術が、今も「人々の心の再生」に力があるのは、そのためかもしれない。

人が心をこめ年月をかけ完成させるものを、画面や音響機器でなく、目の前でナマで体験すれば、誰でも、人が積み上げる年月の尊さを思い知る。自分の時間も他者の時間もまた大切だ、人生もまた尊い作品にするべきだと。「二十歳過ぎればオジン、オバン」などと言う若者に、今それを伝えるべきだ。真の芸術を受け止める事は、犯罪の激減にもつながる。

だから、新しい世紀を「心」の世紀とするため、「芸術の尊さ」を見詰め続けたい。日本で、それが最も自然な街は、もちろん神戸。あの震災のときの芸術の尊さを忘れない。

神戸人として芸術の尊さを伝えよう、それが私の、21世紀の夜明けの、夢と決心になる。

とことん実践の21世紀

田口裕生（28）
NHK神戸放送局映像取材
（報道カメラマン）

ついにデジタル放送が始まりました。世紀末ギリギリのスタート。本格的なデジタル発信の幕開けですが、テレビで働く私としてはは手放しには喜べないのが本音です。

これまでの情報発信は、私たちのようなマスコミが多くの情報をつかみ、メディアを通して世の中に発信する、という伝わり方でした。しかしインターネットの利用が進んだ今となっては「個人が情報を得て、個人で発信する」というスタイルになりつつあります。情報を操るのは、もう「企業」はなく「個人」なんです。

インターネットの接続速度が早くなって、楽に放送と同じ品質の動画を送ることができるようになると、ますます質・量ともに高い水準で、個人の情報発信が進むでしょう。これはあと2～3年で実現するといわれています。

こうなったらもう、扱うのがめんどくさい「電波」なんぞはいりません。放送局もシステムではなくて、中身（コンテンツ）で勝負の時代。極端なことをいえば、個人も放送局も中身を作る上では同じスタートラインに並んでしまうんです。そんな時代に、テレビ、とくに報道に携わる私は何をすべきか？　21世紀の課題です。

とにかく世の中で起きていることで、何が正しく、何が間違っているのか、きっちり判断でき、なぜそれが正しいのか、間違っているのかを自分の言葉で説明できる。

簡単そうで難しい、ジャーナリズムの基本を磨くことだと考えています。それには何事も経験。とにかく体験。これしかない。とことん実践の21世紀にしたいですね。

「電波」はなくなれども「ジャーナリズム」はなくなりませんから。

＊

神戸のアーバンデザイン⑬

―都市は美しくなったか―

（私的空間と公的空間）

フラワーロード

居留地十五番館前

西区春日台6丁目

武田則明
（（株）武田設計）

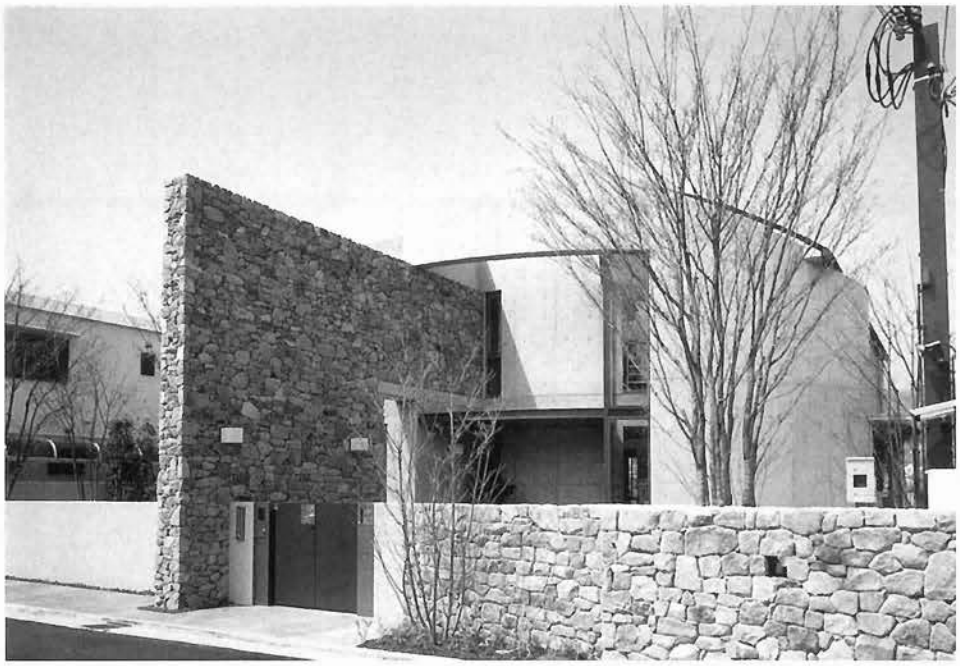
私達はよく欧米の都市を旅行する。何故だろう。旅は異なった風土を知り、生活文化に興味を抱かせる。私は住まいや町並みに興味があり、美しい町並みが好きだ。都市と田舎とは趣が異なるが、窓辺に花が飾られて、道にベンチが置かれ、お年寄りが日向ぼっこをしている姿は、微笑ましくもあり美しい。それに比べ、日本のニュータウンの戸建住宅地を見ると、道路からはプラスチック屋根のガレージが見え、一生懸命お金をかけて建てた住宅自体が見えない。道から見えにくいから、窓辺に花を飾ろうという気持ちになれない。また静かな住宅地だからといって、道に椅子でも出して日向ぼっこでもしようものなら、道路の不法占拠だと罵られる。道路は皆のものだからこそ、豊かな生活空間に作り上げなければならない。そのために花を飾り、綺麗に掃除をして豊かな空間に仕上げるのだ。

日本人は、公的な空間と私的な空間とをきちっと区別し、私的空間は美しく飾るけれども、公的空間は全く関心が無く、平気で汚すことができる。道からは住宅内の生活を感じることはできない。だから酒鬼薔薇事件が起きたのだろう。戦後、自ら勝ち取ったものではない民主主義と個人主義を履き違え、自分だけ良ければ良い式の考え方になってしまった。戦後半世紀以上経過したのだ、そのような考え方から卒業しても良い。

神戸の町にも次々に超高層ビルが建った。このことは私には、都市のスカイラインが乱れ、決して美しいとは思えない。例えば市庁舎だけ超高層にすればよかった。でないと都市の中心として、何が市民にとって大切かが解らない。神戸の空間的マスタープランが無いからだ。アイランドの新市街地に超高層建築を集め、旧市街地は歴史と文化を守り育てるべきだ。

情報化社会では、自然条件以外で都市の個性を主張することが困難になった。神戸のモダンでハイカラな文化をもっと大切にしたいと思う。この意味で旧居留地協議会の活動は地道だが立派だ。自動販売機は直接道路に面さないビルの内側に設置する、袖看板は取り付けない等自主規制を行い、一方電線などは地下に埋設することで、町並みがすっきりとした。これを維持するために協議会の人々は、時々公的空間である道路や植え込みを清掃している。美しく見えるのは目立たない努力の積み重ねの結果だろう。もっと公的空間を意識して町を見、行動しよう。

神戸のモダーンリビング⑬
―岩園町の家―


外観（東面）

古田義弘
〈(株)アトリエフルタ建築研究所〉

地下１階テラス

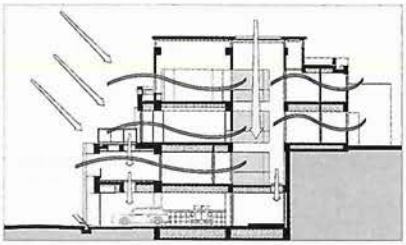
１階居間・食堂

芦屋の山手、ゆるやかな丘陵地の閑静な住宅地にこの敷地はあります。小高い尾根筋で6メートルもの高低差のある東西2本の道路に挟まれています。この高低差を上手く利用しながらこの土地を有効に計画しました。

図のように地下2階には車庫と通用口、地下1階には地下とは感じさせない見晴らしの良いテラスに面してゲストルーム・浴室・リラックスルームを配置しています。これには文字通り光が降り注ぐ中庭―光庭―がこの階まで吹き抜けて、これらの部屋に光と風と地下にはない居住性をもたらしています。

地下空間をとることによって、1階の居間・食堂・和室続間など住み手の想いのこもった、充実した空間が実現しました。

白を基調とした内部空間は、プラスター木コテ摺の壁、ナラフローリング、自然石貼の床、フローリングと同じナラ材を使用した造作家具を壁面と一体化し、間接照明など、全体をシンプルにまとめています。モダンなデザインながら自然素材をふんだんに使った暖かみのある空間が家族や数多く来られるお客様を包み込みます。



2階のルーフテラスからは、芦屋の街を一望でき、プライベートな時間を楽しめます。

外観は大部分のコンクリート面をハツリ仕上とし、曲面壁のコンクリート打放しとのコントラストによってさまざまな表情をみせ、何か月もかけて職人が腕に縒りをかけて積んだ庵治石積の壁面がこの建物をより一層、豊かにしています。アプローチやテラスにも自然石を貼り、庵治石壁に寄り添って立つ、株立のヤマボウシなどの木々が建物を包み込み、芦屋の街並みにふさわしい風合いを見せています。

プランニングから自然素材の選定、全ての面で手造りにこだわり唯一無二の「住まい」は震災のために一時中断したものの、6年の歳月を経て、芦屋の街並みに溶け込むことができたと思います。またたく間にできてしまう即席住宅ばかりの昨今、それぞれの形や素材を徹底的に吟味し創り上げてきた住まいは、我々にとって、またこの芦屋の街並みにとっても時間やお金には代えがたい貴重な財産となりました。

連載　福祉レポート

こちらトゥモローです！

その2

作業所じゅずつなぎⅡ
共働作業所「パセリジュニア」の巻

山陽と地下鉄が走る板宿駅の近くに、かわいらしい作業所があります。その作業所の名前は、パセリジュニアといいます。地震後の一九九六年四月一日に、長田区にある山吉市場の中でオープンしました。ここは身体障害者と知的障害者の人が働いています。メンバーの石倉愛さんは、とってもみんなが好きです。そしてとっても大好きな物があります。それは牛乳とご飯です。高山麻貴さんは、元気な声で作業所の中をにぎやかにしてくれます。橋本和子さんは、いつもパワフルで元気な人です。岡島伸明さんは、とっても散歩するのが好きです。菅田耕一さんは、カラオケが好きです。職員の黒田夕起子さんは、とってもパワフルでいろんなことにチャレンジしています。片岡とおるさんは、何とパセリの近くに住んでいます。この七人で活動しています。また、上杉結喜子さんは週一回パセリジュニアに来ていて、たくましくてよく仕事をしています。

建物はとってもひろくて、十分車椅子でも通れるような構造になっています。朝は、みんな十時に集まって来ます。お茶を飲みながらわいわいと話をしたり、一人一人が出来るような仕事を職員の方達がみつけてきて、『今日はどんなことをしようか』とみんなで相談して、その日の仕事を決めています。そこから一日が始まります。また、昼ご飯をみんなで食べたり、散歩にいったりもしています。もちろん仕事もしています。彼らの仕事は店番を通じて、地域の人々と交流をしながら花とほかの作業所の商品を売っています。例えば、さをり織のふくろや陶器、そして私達トゥモロー編集室が出した『共同作業所ショップ工房ガイド』などがあります。ほかにも古着や本もおいています。また、地域のイベントにもよく参加しています。

パセリジュニアでも毎月一七市というバザーイベントをおこなっています。一七市とは、一九九五年一月十七日に起こった阪神・淡路大震災で被害に遭い、建物も倒れ、避難生活をしていた、この経験を忘れないためのイベントです。メンバー達がお店の前に立って、『いらっしゃいませ、何にしましょう』と言う元気な声が部屋全体に広がって、お客さんを迎えています。少しコミュニケーションの難しい人でも笑顔で、お客さんと話をしています。その他にもパセリジュニアの近くの人達とお茶会とかしながら、ふれあいが出来たらいいなとメンバーの方たちが話しています。そんな形で人と人とのかかわりを大事に、これからのパセリジュニアは、もっともっと地域との交流をと思っています。メンバーの顔や名前をおぼえてもらって、いっぱいの人にパセリジュニアのことをもっと知ってもらい、いろんな人と関わって行けたらなあと職員の方が話してくれました。

（文責／鞍本紗綾）

「パセリジュニア」のスタッフのみなさん

パセリジュニア
神戸市長田区庄山町3-1-11
☎(078) 642-2620

トゥモロー編集長のひとりごと

十一月二日から四日間、海外旅行に出掛けた。シンガポールで暮らしている友人を訪ねて、関空を飛び立った。初めて行くシンガポールに期待と不安で胸が一杯になる。街は本当にゴミ一つ落ちてないくらい綺麗なのだろうか、車椅子障害者でも自由に行動できるのか、また噂に聞くようにマーライオンはつまらないのか、などだ。

街を見て感じたのは、小さい国にも関わらず緑が多い事。残念ながらゴミの方は日本と同じように落ちていたが、さすがにタバコの吸い殻とガムは落ちていなかった。もう一つ、障害者の姿をほとんど見なかった事は一筆に値する。おそらく障害者には施設収容施策をとっているのだろう。そのため歩道の整備（段差の解消）などは進んでいない。しかし、公共施設は全てバリアフリーになっているし、必ず車椅子用トイレがある。この辺は日本にも見習って欲しい所だ。放置自転車も見る事はなく、合格点をつけられる道路事情だ。最後に、シンガポール川の河口にのんびりとそびえ立つマーライオンは予想より小さく、可愛いものだなぁと思った事をつけ加えておきたい。

（文責／編集長・吉良和人）

共同作業所「トゥモロー編集室」は、障害者・高齢者に向けたバリアフリー情報紙「トゥモロー」を編集・発行しています。☎（078）621・1772

2000年度JCI世界会議札幌大会が開催
神戸豚まんが大好評だったジャパンナイト

今年で55回目を迎える世界青年会議所世界大会。2000年を締めくくる世界大会が、11月6日～11日の6日間、札幌市で開催された。日本で開催されるのは、94年の神戸大会につづく6度目。「Sprit of Collaboration～21世紀の扉を共に開き、共に創りはじめよう～」を大会テーマに、112カ国10000人を超えるメンバーが参加。世界にJCメンバーは40万人を数え、その代表が札幌に集い、2000年国際青年会議所カリン・ビスディー会頭のスピーチにはじまり、ディスカッションなど国境を超えた意見交換が行われた。

本大会が終了すると、毎夜、各国の文化を紹介するインドナイト、韓国ナイト、バルセロナナイトなどが順番に開催された。「ジャパンナイト」では、日本国内各市のJCがブースを設けて、その土地の名産や特色を紹介し、海外からのメンバーに楽しんでもらうと熱気あふれる催しとなった。神戸JCでは、「神戸豚まん」なるものを持ち込んで、賭博の要領で「半か長か」ならぬ「大か小か」を賭けてもらい、見事に当たれば、大小の豚まんを振る舞った。国際交流委員会メンバー自らサイコロをふる演出もあってか？神戸JCブースは大人気だった。

またLOM（Local Organization Membership）ナイトには、神戸JCから86名もの参加があった。LOMというのはエリア分類を指し、つまり神戸JCだけが集まって、交流の場をもつというもの。中には、女装したメンバーが、お酌をする場面など笑いを誘い、すっかり打ち解けた様子に。今年で神戸JCを卒業する17名のメンバーも参加し、全員が登壇スピーチを行った。神戸で世界会議神戸大会の思い出話も。終盤の卒業生送り出しの合唱の際には、突如ウェーブが起こった。料亭「川甚」の仲居さん方も「床が抜けそう」と、驚いておられたそう。

ジャパンナイトの神戸JCブース

千葉悠晃国際交流委員会委員長

女装したメンバーが…「恐い」

こちらはバルセロナナイト

卒業生送り出しの合唱（LOMナイトの1コマ）

連載 11

ミステリーグルメ 神戸篇

ONE DAY LILY

—横田家の謎—

ウドノ葉生子

昨夜緊張していたのか、酔いが珍しいことに残っていない。早速、シャワーを浴び濃いめのコーヒーを急いで飲み干してホテルに向かった。

横田夫人の部屋をノックする。

「おはようございます。お体いかがですか」

「まあ、ジュリアンさん。ええ、すっかり元気になりましたの。ありがとうございます。お気遣いいただいて。もう立ち直れないと思っていたのに、こわいもので日にち薬と言うんでしょうね。神戸に来て少しお食事も頂けるようになって」

「それはよかった。何事も体力が一番ですから」

「それはそうと昨夜はみんなが大変お世話になったそうで」

「とんでもない。かえって僕の方がご馳走になりました。ところで、お部屋に素晴らしい百合が一杯溢れていますねえ」

「好きなんですの、百合が。主人はあまり好きでなくて」

「ああ、だからお部屋が別々だったんですね」

「…（間いに答えず）私は特にワンデェィリリーという花が好きで… この花はユリ科じゃないんですが一晩だけ咲き誇る美しい花ですの」

「そうですか。たしか脅迫状にもその言葉が使われていましたね」

心なしかさきほどの元気ぶりが急に萎え、窓から差し込む静かな秋の陽を背にして夫人の表情がはっきりと読みとれないが、何らかの動揺が走ったようだ。よく注意してみると、細くたおやかな白い指の動きがこの部屋の空間でもがいている。

しかし、これは避けて通れない質問だ。

「…そうでした。本当なら私が殺されていたんでしょう、きっと。あの花は私を指していたんですもの」

「しかし、逆の読み方もあります」

「どういうことですの」

「奥様もしくは、奥様になりかわりの行為、復讐って線もあります」

「…それはないでしょう」

「言い切れますか」

「…ともかく、ジュリアンさん。私にはわかりません」

「では、もうひとつ質問をお許し下さい」

「どうぞ」
「波留菜さんのことです。ズバリ言って実子ではないと聞きましたが」
夫人は驚きの声を押し殺すように手を口元に当てて大きく目を見開いた。
「どなたから聞かれたのです？」
苦渋に満ちた声が低く落ちた。
「申し訳ありません。名前は言えませんが、波留菜さんにはまだお話ししておりませんからご安心下さい」
「そうですか。あの娘は知りませんか。よかった…。そう、まだでしたか」
「ええ、奥様にお伺いしてと」
「…安心しました。そう、あの娘は私の子供ではありません。夫がパリで知り合った日本女性との間にできた子供でしてね。私の友人がパリにいた関係で知ることになったのですが。その方は日本大使館で書記官をなさっていましたの。（その瞬間、目が輝き、ひと呼吸すると過去の糸をたぐりよせ想い出の時間に夫人は歩き出したようである）たまたま、夫とその女性が歩いていたので挨拶をしようとなさったのですが、とても声をかけられるような雰囲気ではなかったそうで、というのも抱擁とキスのみだらな行為だったそうですの。道行くパリの人すら不愉快だったというじゃないですか。（無表情の中に軽蔑と嫌悪感がチラチラ見え隠れして）そしていつのまにか公式な場所にも二人で現れるようになったので、そのお友達が非常に哀れに思って下さって。お手紙でその事実を教えて頂くことになったのです。私も短気な方ですから早速、夫のもとに離婚書類を送付いたしましたの。ところが、夫は『彼女は単なる遊び相手であるから結婚なんてとんでもない。その意志は全くないから気にするな、ただ子供ができてしまったので引き取るから育ててやってほしい』とあまりにも身勝手な言葉で、私の苦悩などどこ吹く風、なんと生後一カ月の赤ちゃんをパリから連れて帰ってきたのですよ。当時付き合っていたその方はその後どうなったのかは私は存じません。それでもこわいものですねえ、不承不承育てているうちにまるで自分が生んだ子のように思えてきて、可愛いさと不憫でいそいで出生届を出しましたの。ですからこの子の戸籍はきれいなもので誰にもこの秘密はわからなかったはず。だからご存知であるのが信じられません。でも今では私の宝物、誰が何と言おうと波留菜は私の娘。ですからあなたがこのことを皆さんにお話しされても、私はハッキリと否定いたしますよ。ジュリアンさん、どうぞ、あの娘だけは傷つけないでください」
「なるほど、そうでしたか。わかりました。もし、何らかの理由で波留菜さんにこのことをお知らせしなければならないときはまず、奥様にあらかじめ申し上げます。ところで、おつらいでしょうが、ご主人が不幸な目にあわれたあの時の状況、おぼえていらっしゃいますか」
「…そうですねえ…どうと言われても…。ただ…あの時、主人のそばにいましたが、変な人が近づいてきたということはなかったように思いますが」
「奥様は福充さんが〝青酸カリ〟を所持なさっていることをご存知でしたね」
「ええ、そんな物騒なものを持たないでと叱りました」
「その時、福充さんに青酸カリの効能を具体的に聞かれていたそうですねえ」
「ええ、心配でしたから」
「福充さんは意外に思ったらしいですよ。いつも僕のことや趣味について無関心なのにって。しかし、福充さんはこの話を義充さんにも、波留菜さんにも時をずらしてそれぞれに吹聴されていたらしいんです」
「エッー、波留菜にも？」
「そうなんですよ。困ったものです。問題の残されたワイングラスには複数の指紋がついていたそうなんです」
「そうですか…」
夫人の元気ぶりは見かけだけだったようで、急に苦悩が目尻の皺の亀裂を深くし、目の下には黒い隈をはっきり見せていた。
このやつれきった表情はなにを物語ろうとしているのだろう。
エルメスのグレーはもの悲しい。ニットのワンピースから華奢な足首がほっそりと覗き、まるで今にも倒れてしまいそうな子鹿の足を連想させた。
「福充にそのことを聞いたのはその日偶然、テレビで帝銀事件の番組がございましてネ、そうそうあの子が日頃、毒薬マニアと自慢しておりましたのでふっと思いだし、あんな簡単に人を殺せるのかしらと。好奇心がわいたのは本当です」
「福充さんはどう答えられました？」
「ええ、あの子がいいますのには苦しまないで死ぬクスリはいっぱいある、実際、持っているよって笑いながらいいましたの。ジュリアンさん、まさか、あの子、じゃないでしょうね」
「奥様は、福充さんから取りあげた青酸カリを、今

もお持ちですか」
「はい、私の金庫の中に隠してございます」
「見せていただけますか」
「どうぞ。でも東京でございましょ。どうしましょう」
「大丈夫です。警察の方に早速連絡を入れて確認を取ってもらいましょう。金庫の鍵はどこに」
「そうでしたわね。鍵はベッドサイドテーブルの下段の奥に入っておりますが」
夫人は細い身体にむち打つように立ち上がって室内電話をとって、留守のお手伝いさんに何やら指示している。暗い影が表情を横切る。
「長くなるようだからお茶を頼みましょう」
「では、遠慮なくコーヒーを」
小一時間もすると、ケイタイにコバさんから電話が入った。案の定、福充の言う分量と夫人の所持している分量とに大きな差があった。夫人にそのことを尋ねると大きく目を見開いて、
「ジュリアンさん、私が主人を殺したとおっしゃるの？」
「…。奥様は、その青酸カリを隠していることや金庫のカギのことも皆さんにおっしゃっていますね。なぜ奥様はすぐに棄てないでお持ちになっていたのです」
「そうですね。棄てるのもこわくて、いずれそのうちドクターに渡そうと思っていたんです」
「事件当日、ドクターがそばで介抱されていましたがその時、なぜお話にならなかったのですか」
「そりゃあ、ジュリアンさん。気が動転しておりましたもの」
「そうですねえ。金庫の鍵もわかりやすいところに置いてあったのもいけません。こりゃあ、頭が痛い。ところで、古い話で恐縮ですが、俊充さんとはどちらでお知り合いになられたのですか」
「わたくし、お見合いですの。父が貿易商をやっておりましてね。当時、小豆相場にはまってしまいあげくに倒産寸前。そういう時に横田が偶然あらわれて救ってくれたもんですから、父がこんないい人はいないともうぞっこんで、お見合いということになったんです」
「お見合いでも相思相愛ということがあるんですが、そのへんはいかがですか。横田氏を気に入られましたか」
「…家の事情がそうですから、私の気持ちなぞ父は全く意に介しません」
「失礼ながら奥様には好きな方がいらっしゃったのでしょうか」
「さあ、どうでしょう。（少し弱い微笑を浮かべながら）昔のことです。もう、忘れました」
「こんな美しい奥様ですから…、少しはお察ししてもよろしいですか」
長い、長い。静かな沈黙。
なで肩の夫人の背がやるせない。
窓の外には近づく冬の気配があって、西から吹く風で波が白い。
ふりむくといつのまにか、夫人の姿は消えていた。
「やあ、ジュリアンさん。ここにいらっしゃったのですか」
いつもの濃い茶のダブルスーツを着込んだ小柄な義充が、毅然と胸をそらし何ものにも負けまいとするかのように、にこやかに大股でやってきた。
「義母と何を話されていたのですか」
気になるのだ。
「ええ、事件当日のことをお訊きしていたんです。おかげで事件の核心に近づいてきたようですよ」
（つづく）

ウドノ葉生子

作家、TVイベントプロデューサーなど多様に活躍中。月刊神戸っ子に「松廼家ものがたり」連載。若者向け著書「音声多重面白構造」（三水社）で人気を集める。最近作「あぁ、万事塞翁がお・ん・な」（文園社）では神戸花隈の花柳界の歴史を綴る。ラジオ日本「ウドノヨーコのざっくバラエティ」のパーソナリティを阪神・淡路大震災まで務める。

神戸ファッション市民大学OBによるグループ　神戸のファッション都市化をめざす

K.F.S.NEWS 213
コウベ　ファッション　ソサエティ

事務局／神戸市中央区下山手通2-13-3
建創ビル４Ｆ　月刊神戸っ子内
TEL. 078－331－2246
FAX. 078－331－2795

新年、あけましておめでとうございます。

21世紀をむかえ、今世紀も神戸にふさわしいＫＦＳをめざして、毎月のマンスリーをはじめとする活動を続けていきたいと思います。

みなさんもぜひご参加ください。

ＫＦＳ新年会のおしらせ

—凪月堂88のステキなお料理に舌つづみを打ちながら、2001年という新しい年について語り合いませんか—

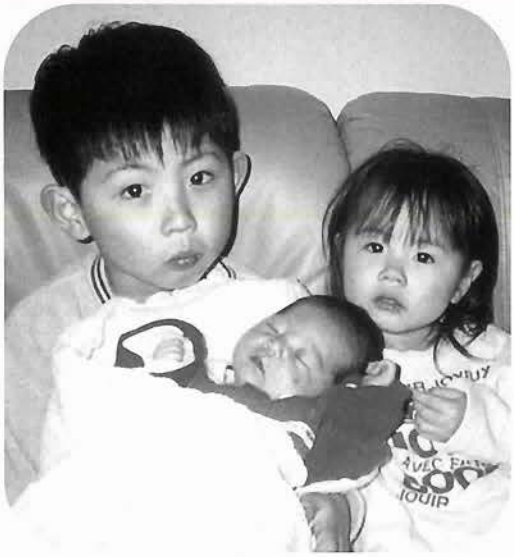
とき／2001年1月14日（日）
　　18：30開場　19：00開宴
ところ／神戸凪月堂88（ポートライナー「中埠頭」駅前）
　　神戸市中央区港島中町7-2-2
　　☎078－302－5555
会費／6000円

連絡先
「ＣＯＬ」加納代表理事
ＴＥＬ　078－331－2020
ＦＡＸ　078－332－2510

SAMOTO CLINIC

佐本産科

ママといっしょに



あかちゃん：上堀（うえほり） ゆりあちゃん
（平成12年3月14日生まれ）
おにいちゃん：一　志くん（5歳）
おねえちゃん：まりあちゃん(2歳)
パ　　パ：庄　一さん
マ　　マ：恵　美さん
「みんなの愛情をいっぱいうけて元気で大きくなってね」

★佐本産科・婦人科★
佐本　学
神戸市兵庫区中道通4-1-15
TEL:078－575－1024（病室TEL:078－577－7034）
市バス上沢４停南スグ
●駐車場完備●

竹久夢二

「四つの恋のものがたり」

〈その二十〉スイートホームへ美貌の魔女現る

中右　瑛

屏風「都鳥」竹久夢二画
「初ゆきや　水天宮へ　都鳥」　夢二が「おじさん！」と親しく呼んで敬愛していた株屋・上田龍耳の句が添えられている

赤い三角屋根のモダンな「少年山荘」。思いもよらず難産だった。震災復興の建築ラッシュで材料が思うように手に入らず、仕方なく輸入材で間に合わせ、また、ひっぱりだこの大工の手配にやっきとなり、加えてお葉の家出、現場監督の金の持ち逃げ、それがため夢二は金策に走りまわるなど、トラブル続きであったが、ようよう完成にこぎつけた。

長い浮き草生活の夢二にとって、はじめての我が家といえるもの。転居さわぎで忙しい大正十三年の暮れの押し迫ったころ、お葉は何事もなかったように、夢二の元に帰って来たのだった。

夢二は、

「なぜ？　家出した…」

と問いつめるのだが、お葉の返答はなかった。しかし、お葉の帰宅に夢二は内心ホッとした。心が安らぐ思いだった。

夢二はお葉の不貞事件に目をつむり、心あらたにしてお葉を迎え入れることにしたのだった。

明けて大正十四年正月、九州八幡の実家に長らく預けていた不憫な長男の虹之助を呼び寄せ、次男・不二彦、お葉との四人が仲よく暮らしはじめた。虹之助十八歳、不二彦十五歳、お葉二十二歳、夢二は四十三歳。

お葉は夢二のことを「パパ」と呼び、年があまり違わない子供たちからは「お姉ちゃん」と慕われた。

「少年山荘」の間取りはなかなかこったもの。正面入口を入ったところが、出窓付きの四・五帖ぐらいの居間（洋室）、これは応接間として使った。その奥にアトリエ（十帖ぐらい）、窓からは遠くに富士が望める。その奥が食堂。そこから二階への階段がある。食堂の横に和室の小部屋（四・五帖）。食堂のつづきに勝手口のある台所、その横に三帖ほどの女中部屋。

家族が使う内玄関脇には六帖の和室、ベランダがあり、食堂へとつながる。トイレが応接間横と、台所の奥の二か所にあった。

中二階は夢二の寝室でベッドが二台。虹之助、不二彦の部屋もあった。

ロケーションよし、建物の外観すこぶるよし、広い間取り、別荘風の「少年山荘」は誰から見ても理想的な住居であった。

夢二は念願かなった家を持ち、お葉とも仲よく、子供たちとも一緒に暮らせて、久しぶりに楽しい日々を過ごせる充実したスイートホームに心がはずんだ。

「少年山荘」はいつも若々しい人たちの来訪で賑やかだった。音楽家の福田蘭童や新進詩人のサトウハチローら、それに画家志望で夢二ファンの少女たちが絶えずたむろし、家事や炊事、お掃除など手伝っていた。

夢二には心うたれ尊敬した画家に藤島武二と青木繁がいる。藤島、青木ともに近代日本洋画界の曙として人気があり、詩的で甘美な浪漫調の絵画は、夢二抒情画のお手本であった。夢二は藤島、青木のアトリエをたびたび訪ねている。青木繁の子・福田蘭童は、夢二のアトリエに通う常連だった。

セノオ楽譜「桜町」夢二装画

しかし、この平和な落ちついた夢二、お葉の家庭生活はそう長く続かなかった。

お葉は病に伏せることが多く、寝たり起きたりの病気がち。何かに思い詰めたように空虚で、魂が抜けたように元気がない。

そのころ、「少年山荘」に一人の美しい女性が訪ねて来た。新進小説家の山田順子である。順子は、ときの流行作家・徳田秋声の弟子で、処女作『流るるままに』（大正十四年四月）を出版するにあたりこの本の装幀を夢二が引き受けた、という間柄の女性。『流るるままに』は順子の自伝小説で、順子の半生がイプセンの『人形の家』とそっくりで、順子は「和製ノラの出現！」と、ジャーナリストから持ちあげられ話題となり、新進小説家として注目されはじめていたのだった。

お葉が元気がないのは、夢二と順子との仲が気掛かりだった。派手で男好きの順子が夢二にぞっこんという噂をたびたび聞いていたからだ。

お葉は身勝手な女である。自分が不貞を犯しておりながら、一方、夢二の行動や噂をいつも気にしていたのだ。

順子の突然の来訪、お葉はいやな予感がした。お葉と順子の間に、火花が散った瞬間だった。

美貌でジャジャ馬という順子の出現が大スキャンダル事件へと発展してしまうのだった。

■中右　瑛（なかう・えい）
抽象画家。浮世絵・夢二エッセイスト
1934年生まれ、神戸市在住
［受賞歴］行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵蒐集研究の功績により浮世絵内山賞受賞。半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。
現在　行動美術協会会員　国際浮世絵学会常任理事。著書に、抽象画集「シエリト・リンド／ミラクルブルーの世界」「浮世絵ミステリー巷談」「写楽は18才だった！」「忠臣蔵浮世絵」「豆本・夢二黒猫綺譚」がある

ZOOM IN ZOO

NO.404

実録 王子動物園史
<伝えたい！悲惨な事故死>

亀井一成の
ズーム イン ズー

動物の悲しげな目がうったえかけてきます

「ジャンケン、ポイ！」

キリン、シマウマなどが積み込まれた船上で、集まった園長さんたちのクジ引きです。

「それじゃ、神戸はこのキリンとシマウマをいただきましょう」

ケニヤを中心に、ウガンダ、タンザニアなどで捕獲許可の専門業者が、ジープで、逃げるキリンやシマウマと並行に走り、竹ざおの先につけたロープの輪を首にひっかけて捕らえ、暴れるシマウマを輸送オリに入れ、すぐさま近くに設けてある馴致のための飼育場へ収容します。ここで4か月以上は落ち着かせ、ヒトの近くでも水を飲み、エサを食べるまでに馴らすのです。

ケニヤからモンバサ港を経て70日

甲板上では、キリンはキリン、シマウマはシマウマというように、すき間から仲間が見えて匂いがわかるように並べてやるのです。

1951年の動物園開園当時には、こうしたアフリカからの動物は、ほとんどが神戸港に入港しました。当時、板東貿易（神戸）、京浜鳥獣（横浜）、有竹鳥獣（東京）などがありました。

検疫の必要なキリン、シマウマは、船からただちに動物検疫所に収容しますが、30日間検疫所で検査を受け、合格したものが動物園に運ばれます。その間の飼育はすべて輸入業者の責任なのです。

無事検疫が終わってもオスばかりであったり、受け入れ側の工事の遅れがあったりで、連続して輸入される動物たちを、スムーズに発送できません。

「園長さん、あずかりましょうよ」

初代山本吉之助園長と、キリン、シマウマ、ライオンなどを、一時王子動物園に積極的に預かりました。

なにしろ、開園当時は動物が少なく、正式に買い取る予算もなく、しばらくでも預かった動物を、入園者に見ていただける。さらには、各種動物の輸送オリからの開放や収容の経験、そして飼育研究のデータを得ることができます。

船で送られてきた動物たちと、クジ引きをする園長たち

グレービーシマウマ（1957年、日本で初めて誕生した）

預かった動物は、キリン、シマウマ、ダチョウ、ライオン、チーター、ハイエナ、子ゾウ6頭。

悲惨なシマウマの暴走死やキリンの上下顎の骨折事故

「カメイ君、このシマウマ傷だらけだ。早く出してやろうよ」

園長、副園長、いやボクも同じでした。あまりの痛々しい顔や前肢の傷に、輸送オリのままではいたたまれません。そのシマウマはオスでした。神戸には、オスとメスの2頭が予定されていました。そのシマウマは、東京に送ることになっていたのです。

当時のシマウマ舎は太い丸太で囲ったもので、現在のように全網張りではありませんでした。2頭を飼育予定で、けっこう走れる広さがあった、それが災いとなりました。

「出しますよ！」

ボクも両園長も初めてのことで、いきなり広い運動場に向けてシマウマを放しました。

ド、ド、ド、ドド

走り出たシマウマは、全力で直進し、バアーン

すさまじい激突音と同時にシマウマがぶっ倒れ、

ブルン、ブルン、ブルン

首を持ち上げながらケイレンが…

「カメイ君、どうしよう」

園長さんもボクも、思わずシマウマを抱き起こそうと必死でした。頑丈な囲いの丸太に〝激突死〟したのです。

50年たった、こんにちの動物たちはすべてがどこかの動物園で生まれ、育ったものばかりです。

それでも、狭い部屋にいったん入れるか、壁に向けて放すことで、身体を壁やフェンスにこすりつけながら走り、フェンスのあることを馴致させるよう後輩に教えてきました。

また、

「誰かがバットでキリンの顔を強打したのでは…」

輸送オリの中で座っていたキリン、疲れていたのでしょう。箱オリの横木のすき間に、口先を突っ込み、眠っていました。

そこへ野良犬が通ったから大事故になりました。

ボキリ！

口先を横木のすき間から抜いて立ち上がるところを、バッと立ち上がったのですごいケガになりました。口の先の上下の顎を、テコのようにして大骨折したのでした。

血がほとばしり、どう手当てしても治療は絶望で、せっかく安住の動物園に到着しながら死なせてしまった、この悲しい、シマウマ、そしてキリンの死は、一生忘れることができません。

まだまだ伝えたい秘話があります。いくら近代設備の動物園でも、事故対策は忘れないのです。

木箱に入れられ海をわたってきたキリン

亀井一成先生が撮影した写真を5名様にさしあげます
（亀井さんの直筆サイン入り！）

ご希望の方は、ハガキかFAXに住所・氏名・このページの感想、または亀井先生へのメッセージを書いて下記までお送り下さい。

〒650-0011 神戸市中央区下山手通2-13-3
建創ビル4階
月刊神戸っ子「ZOO」係 FAX078-331-2795
（1月31日消印有効）

有馬歳時記

シリーズ―人と出逢える街・有馬〈13〉

有馬の人に、うまいものを

前良食品　前沢　利幸さん

前沢利幸さん。前良商店の前で

有馬でがんばる人に出逢いたいというこのシリーズも12回めをむかえた。有馬の人の話はどこかおもしろい。「こんな話で記事になりますかねえ」と笑う人の話でも、何かが与えられる。今回は、有馬駅のそばの前良食品の前沢利幸さんに会いに行った。

前良食品の人気商品のひとつに、前沢利幸さんの作る自家製生鮨がある。前沢さんが魚屋での修業を終え、有馬に帰ってきてから商品に加えられ、おいしいと有馬でも評判の生鮨だ。

前沢さんは有馬で生まれ、岡山の高校に進み、その後大手スーパーの魚屋に7年間勤め、10年前に有馬に戻った。今ではたいていの魚はさばけるという前沢さん。「魚屋では、誰かが手取り足取り教えてくれたわけじゃないんです。先輩が魚をさばいているのを横で見て覚えた、だからまったくの我流なんですよ。生鮨の作り方もそうです」

有馬に帰ってきてからは、有馬町青年部のリーダーを1年間つとめた。40歳までの若者が集まり、イベント企画などを行う有馬町青年部は、現在会員30名ほど。夏には滝川の河川敷に座敷が造られて、観光客が涼を楽しむ「涼

露天風呂とご昼食
ひさご弁当
兵衛
向陽閣
TEL（078）904－0501(代)

有馬温泉月光園
GEKKOEN
鴻臚館
KOROKAN
TEL（078）903－2255
姉妹旅館 游々山荘
TEL（078）904－0366

テニスでいい汗
いい湯にとっぷり味に集う
ARIMA
SUNNY SIDE UP
TENNIS CLUB
TEL（078）903－1024

播磨 有馬
恵所坊
TEL（078）904－0551

静寂さにつつまれた
くつろぎの宿
国際観光旅館
陵楓閣
TEL（078）904－0675
TELEX　5627－115

風川座敷」も、青年部の企画。「昨年は青年部でそれぞれ屋台を出して、僕はつぼ焼きをやったんです。旅館の板前さんに、だしの作り方から教わって、でもそれがむずかしくてなかなか覚えられなくて。けどええ経験したと思います」

「青年部といっても、みんな小学校から一緒なのばっかりなので、遊んでてもあまり上下関係がないんです。僕はリーダーとしてはあまりよくなかったと思いますよ。人に指示するよりも動くほうが楽という性格なので」。言葉は少ないが、有馬のことや店のことを考え、話すよりも行動する、町に必要な若者とは前沢さんのような人なのではと思った。

「安いなあ、と言われるより、うまかったなあと言われる方が嬉しいですね」。有馬の新世紀をになう、行動的な若者に会うことができた。

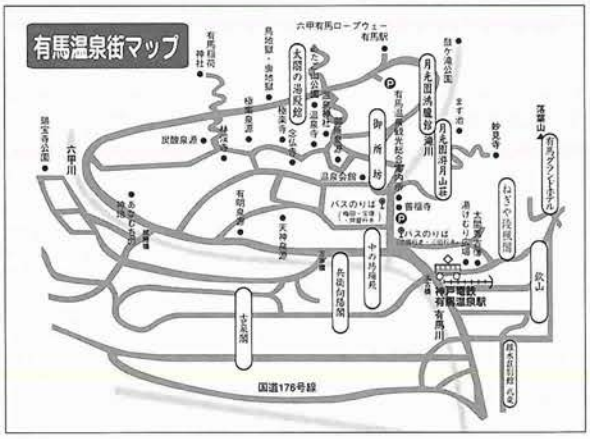
店には新鮮な魚が並ぶ

完成が待たれる「太閤橋」

有馬温泉の1年は、1月2日の「入初式」で幕を開ける。有馬の湯を見つけられたといわれる温泉の大神様と、有馬温泉の開祖である行基・仁西両上人に感謝する神仏混合の行事。

有馬の街の中心部にある「太鼓橋」は、現在改築中。太閤秀吉にちなんで「太閤橋」と名前をあらため、今年には完成の予定。橋幅もぐっと広くなり、板敷で純和風の「太閤橋」になるとか。今からそぞろ歩きが楽しみ。

今年予定されている、銀泉の外湯のオープンも待ち遠しいところ。21世紀も、有馬温泉は私たちの心の癒しの里になってくれるだろう。



あっという間に切り身ができてしまった

有馬での会食・宴会は懐石料理・ステーキが楽しめるいろり亭「華筵」で!!
（昼5000円～、夜8000円～）
有馬温泉　政府登録国際観光旅館
銀水荘別館
兆楽（ちょうらく）
TEL（078）904－3656(代)
URL:http://nrjp.com/chyoraku/

自然の恵みを
湯けむりに伝える
政府登録国際観光旅館
古泉閣
TEL（078）904－0731

日本の伝統
数寄屋造りの館
欽山
TEL（078）904－0701
チェックイン13：00、アウト12：00
ゆっくりとお過ごしいただけます。

雅ただようくつろぎの館
中の坊瑞苑
TEL（078）904－0781
会議セミナーからご家族づれまで
有馬グランドホテル
TEL（078）904－0181